



横浜国立大学
経済学部
池島ゼミ

Sharing ResourceS による箱根町への利益還流構造創出



1

調査目的

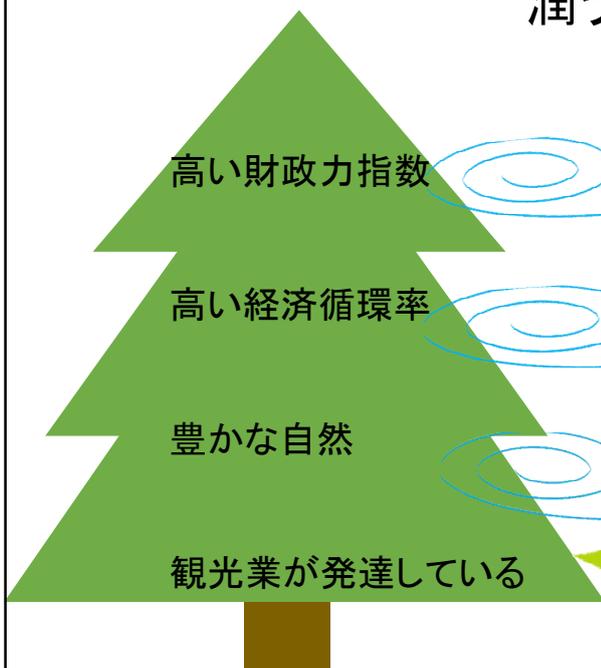
- 1 箱根町の経済循環の実態を把握する
- 2 課題への解決策の提案

箱根町の経済構造を把握する



3

潤う箱根



政府からの地方交付税交付金を受け取っていない！

大涌谷などの火山が多く温泉いっぱい！

土地の90%が国立公園！

京都に次いで第2位の観光客年間2000万人！

4

財政力指数で見る箱根町の財政

財政力指数：都道府県や市町村の財政力を図る目安
 1を超える地域→地方交付税の不交付団体、市町村としては優れた財政運営と評価される
 (基準財政収入額)÷(基準財政需要額)の式で求められる

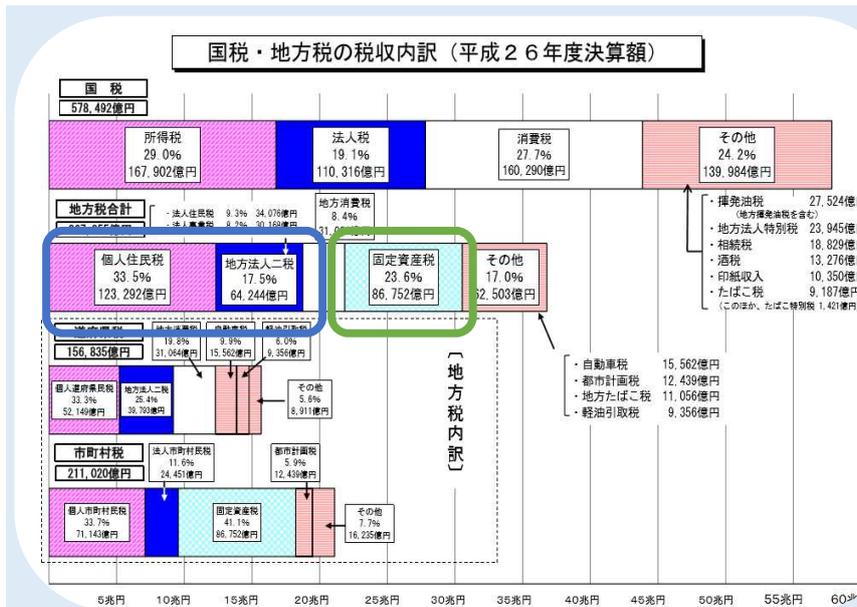
箱根町は**トップ9**(1.44)
 地方交付税不交付

財政力指数ランキング：総務省の平成26年度データ

都道府県名	団体名	財政力指数	経常収支比率	実質公債費比率	将来負担比率	ラスパイレス指数
愛知県	飛島村	2.07	65.7	1.4	-	96.5
北海道	泊村	1.88	40.7	2.8	-	98.0
山梨県	山中湖村	1.81	75.8	4.5	-	93.2
青森県	六ヶ所村	1.64	70.7	4.8	-	95.7
長野県	軽井沢町	1.49	60.1	1.1	-	96.2
千葉県	浦安市	1.48	83.3	5.5	-	101.5
山梨県	忍野村	1.47	85.4	1.9	-	92.6
福島県	大熊町	1.44	57.3	▲ 2.2	-	98.3
神奈川県	箱根町	1.44	97.0	10.4	103.7	98.4
茨城県	東海村	1.41	75.9	2.3	-	101.5

原子力関連施設の進出する地方都市や観光や別荘地としてよく知られる地方都市が各4カ所トップランキング入り。

日本全体の固定資産税割合



○市町村民税の半分程度に留まる

総務省のデータより

各観光地の固定資産税

箱根町

軽井沢町(26年度町役場HP)

表13 税目別徴収状況

科目	調定額		
	現年度分 (A) 千円	滞納 繰越分 (B) 千円	計 (C) 千円
町民税	1,057,947	110,543	1,168,490
固定資産税	4,268,048	484,587	4,752,635
軽自動車税	20,643	2,328	22,971
町たばこ税	174,444	0	174,444
入湯税	717,113	8,561	725,674
計	6,238,195	606,019	6,844,214

地方税の状況 (単位 千円・%)

区分	収入済額	構成比	超過課税分
普通税	8,227,878	90.2	
法定普通税	8,227,878	90.2	
市町村民税	1,936,062	21.2	
個人均等割	64,314	0.7	
所得割	1,461,301	16.0	
法人均等割	234,727	2.6	
法人税割	175,720	1.9	
固定資産税	6,092,883	66.8	
うち純固定資産	6,078,624	66.7	

- 軽井沢 市町村民税 × 3倍
- 箱根 町民税 × 4倍
- 山中村 村民税 × 3.7倍

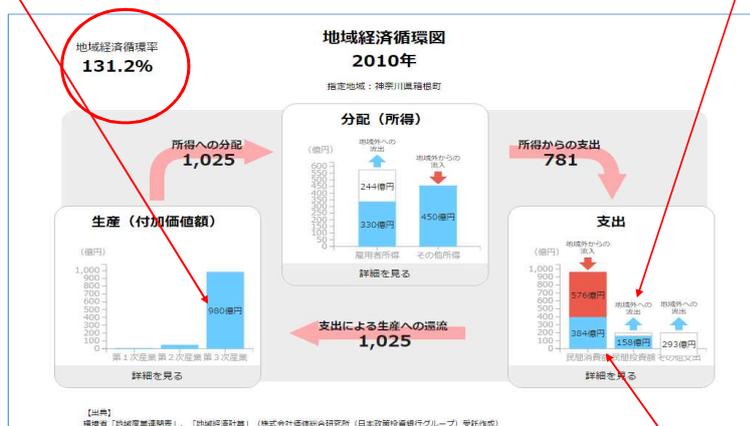
財政力指数のトップ10に入る市町村は押さえて固定資産税収入が圧倒的に多い

箱根町の経済潤環構造



地域のコアとなる産業

箱根企業による域内投資は158億円、域外投資は40億円



所得の244億円が域外に流出している

域内所得の消費781億円、域外所得の消費576億円で合計1357億円の消費。民間消費における域外と域内の割合は150%で1791市区町村で堂々の2位

域外からの消費が域内消費と域内投資を上回り、観光立国の面目躍如

※地域経済循環率 = 生産(付加価値額) / 分配(所得)

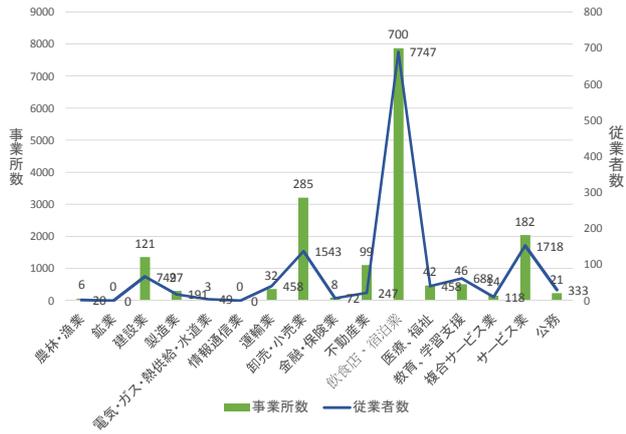
観光客などによる箱根での支出(576億円)

域外への支出293億円は、政府支出と移転輸出入の顕著な出超が顕著を示す

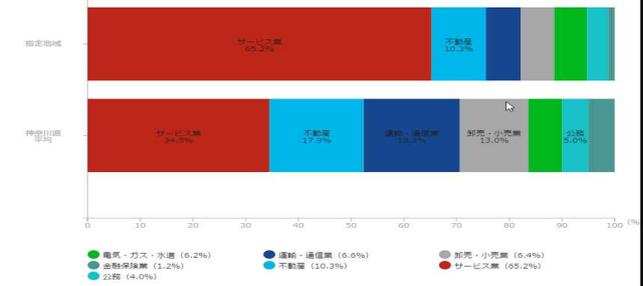
箱根町の産業構造

- 農林水産業は皆無で圧倒的な3次産業偏重
- 中でもサービス業が65.2%と大きな割合

箱根町の事業所数と従業者数



箱根町と神奈川県内の3次産業比較

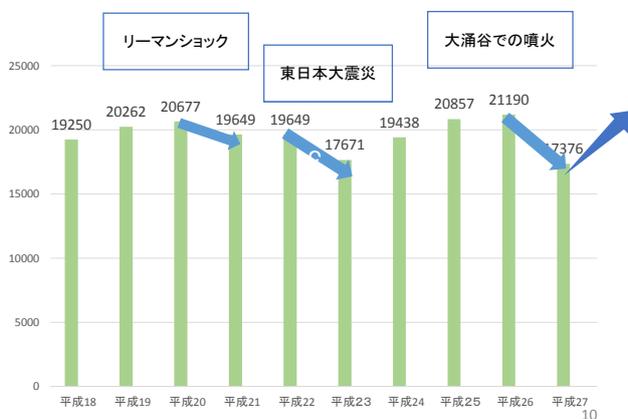


箱根町の観光客数

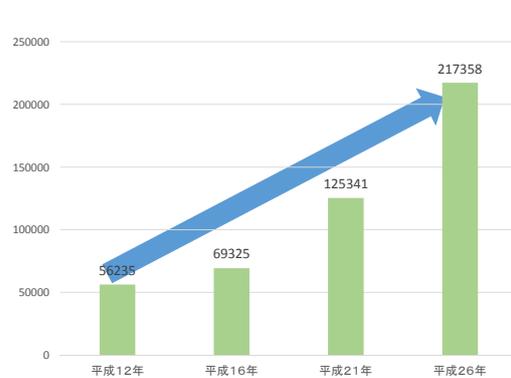
復活する箱根観光客数
28年度 噴火前に戻っている

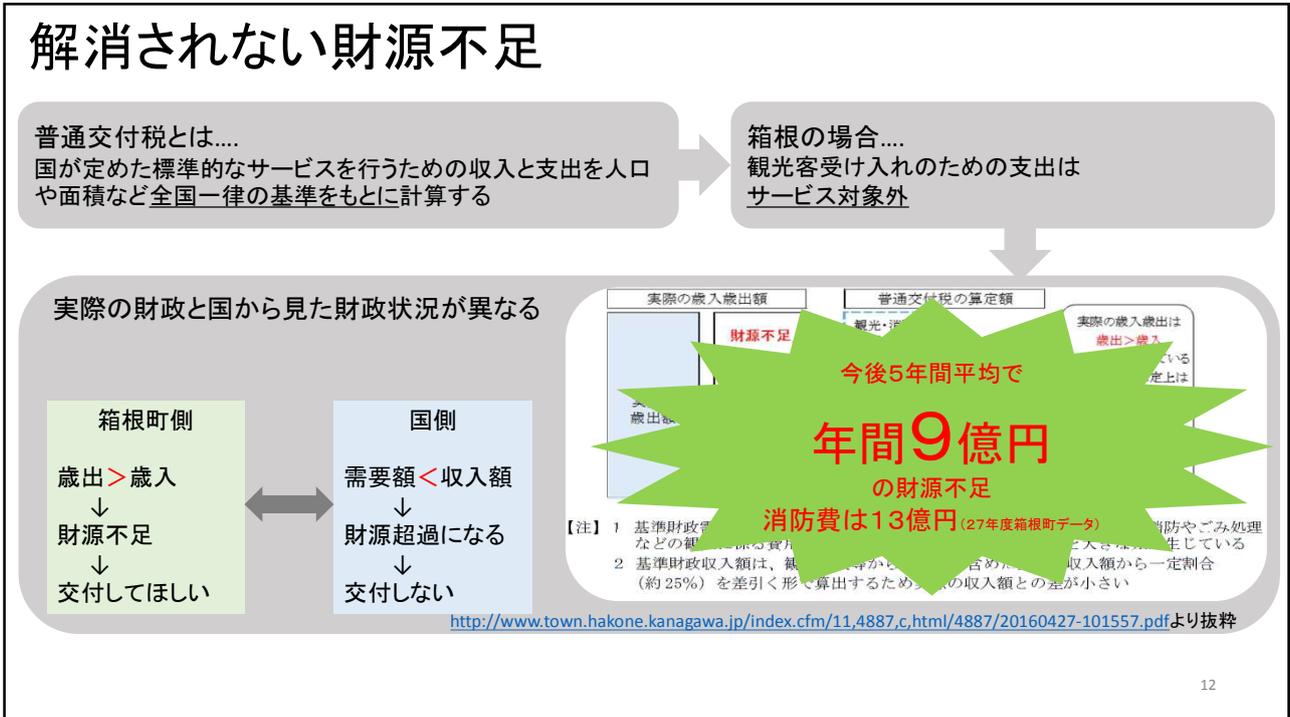
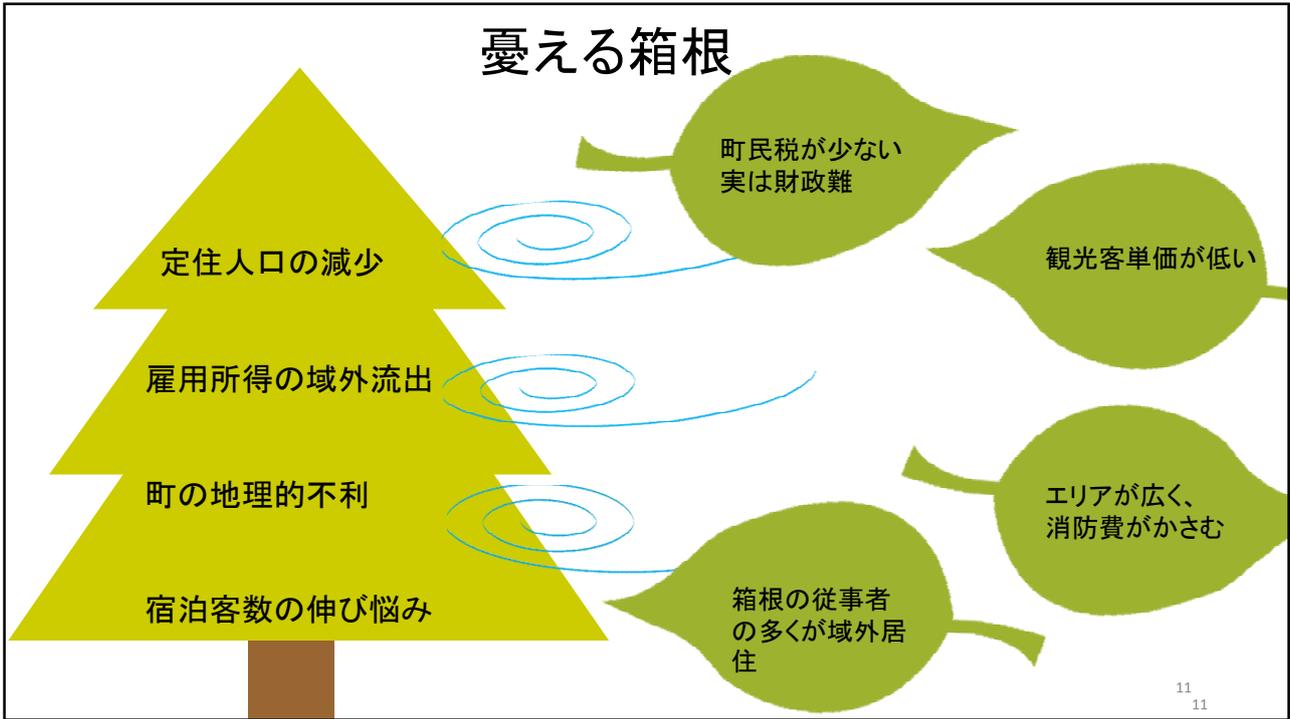
増加する外国人
アベノミクス継続でさらなる増加が期待

入込観光客数(単位:1,000人)

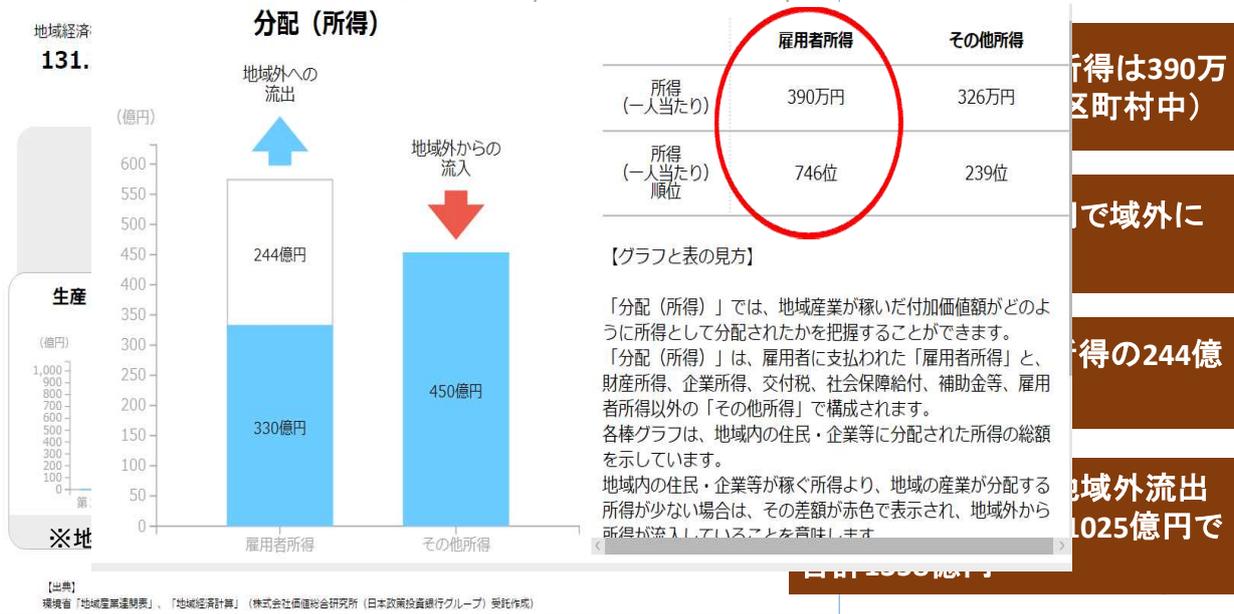


外国人宿泊人数





箱根町の経済循環構造

地域経済
131.

雇用流出の危機的状況

- ・生産年齢人口に占める域内居住者：9000人（2010年）→5000人（2015年）
- ・町内従事者と域外労働者の割合が逆転
9000人：6000人→5000人：9000人
- ・所得の域外流出が拡大：240億円→360億円？



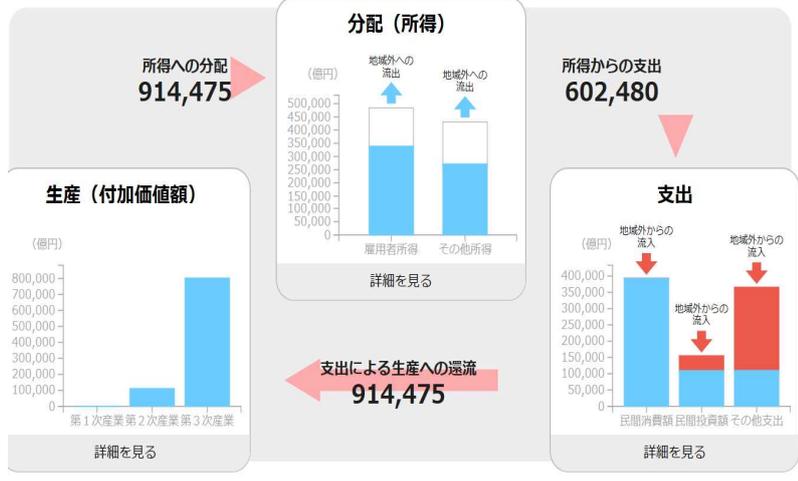
- ・所得流出→GDPの減少→不景気、失業→所得減少→経済縮小→…の悪循環

東京都の経済循環構造

2010年

151.8%

指定地域：東京都



雇用者所得とその他所得における流出は割合は箱根以上に多く、外からの従業員の多さを示す

民間消費の域内外バランスは士ゼロに近く、域内所得からの消費で60兆24807億円

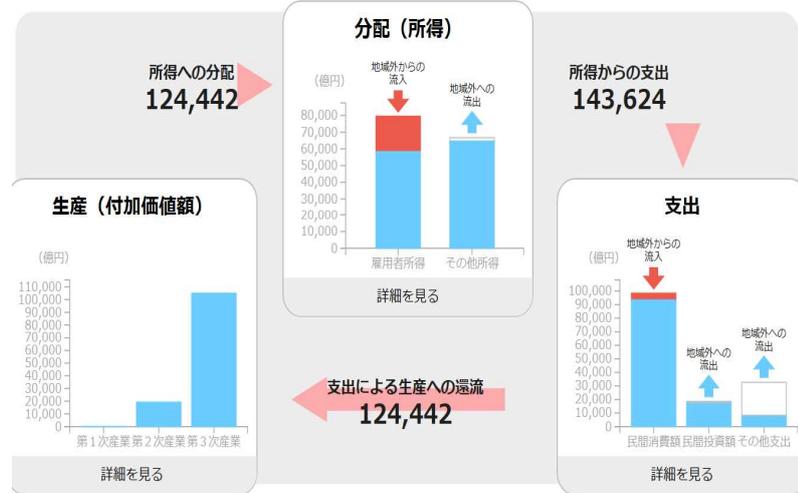
その他支出の域外からの流入が極めて大きく、移輸出の入超を示す

横浜市の経済循環構造

2010年

86.6%

指定地域：神奈川県横浜市



雇用所得は顕著な流入を示す

民間消費はほぼ域内所得からの還流で占められ、域外からの流入は小さい

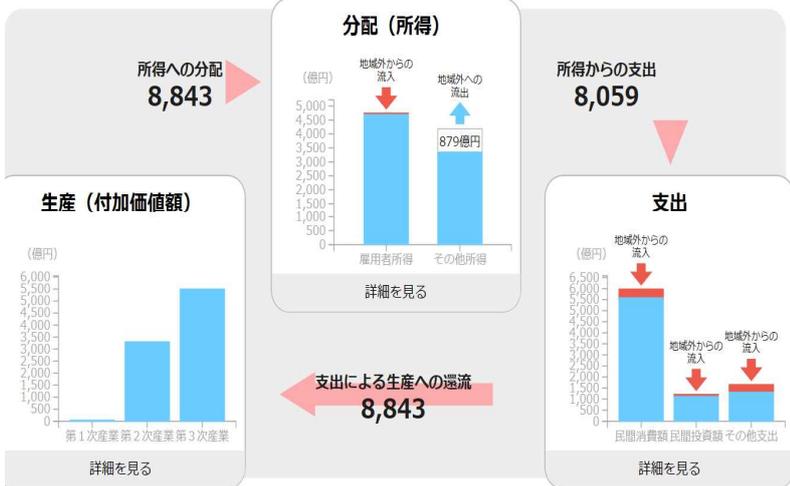
その他支出の流出は雇用所得の流入でバランスがとれている

小田原市の経済循環構造

109.7%

2010年

指定地域：神奈川県小田原市



雇用所得の流出入は無いが、
其他所得が879億円流出し
ている

民間消費はほぼ域内所得から
の還流で占められ、域外から
の流入は小さい

投資や其他支出も若干の流
入にとどまる

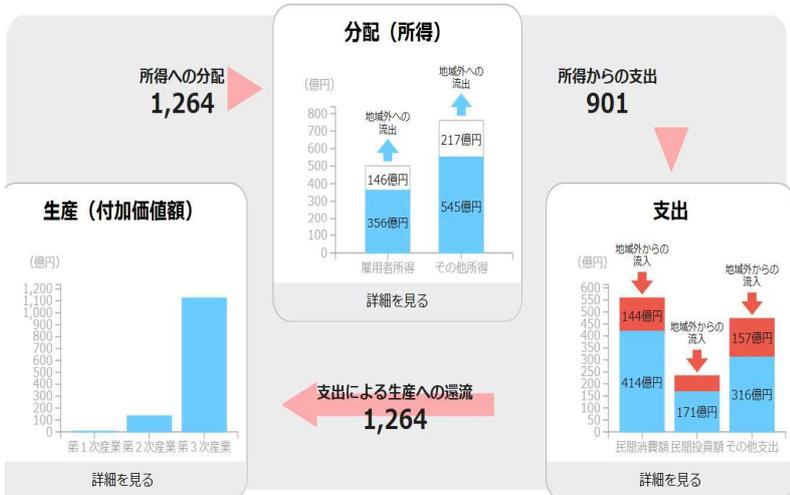
循環率が110%で所得や支出
の流出が無いために健全な産
業構造

軽井沢町の経済循環構造

140.2%

2010年

指定地域：長野県軽井沢町



雇用者所得、其他所得共に
域外流出が比較的大きい

民間消費は箱根ほどではない
が、域外からの消費が貢献し
ている

其他支出は箱根とは対照的
に流入がみられる

循環構造と循環率の高さが相
関している

18

箱根町の経済循環構造

地域経済循環率
131.2%

地域経済循環図
2010年

指定地域：神奈川県箱根町

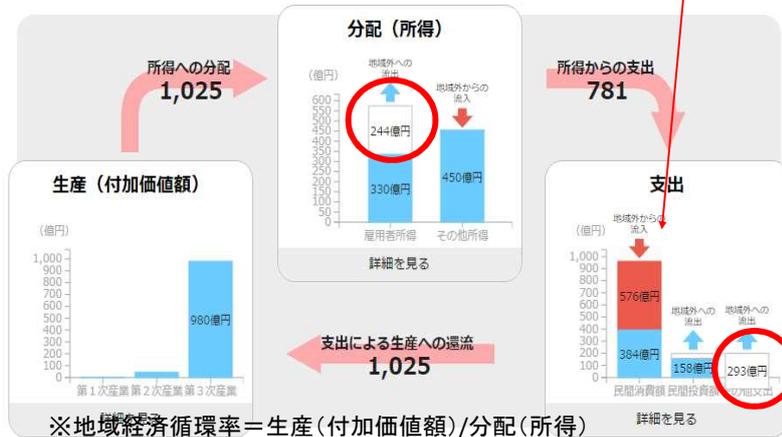
箱根企業による域内投資は158億円、域外投資は40億円

一人当たり雇用者所得は390万円で746位(1741市区町村中)

民間投資は198億円で域外に20%が流出

箱根で生じた雇用所得の244億円が域外に流出

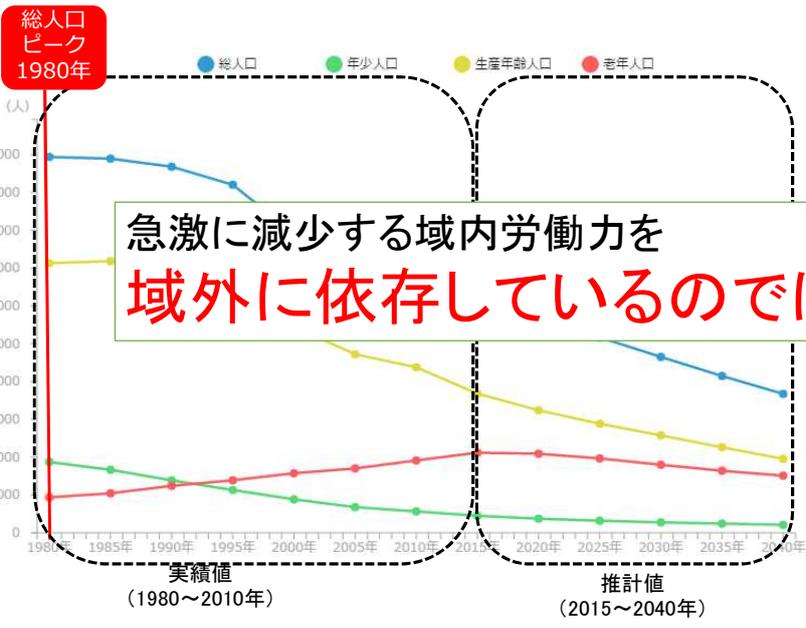
域外投資40億円、地域外流出293億円、生産還流1025億円で合計1358億円



※地域経済循環率=生産(付加価値額)/分配(所得)

【出典】環境省「地域産業循環図集」、「地域経済計算」(株式会社価値総合研究所(日本政策投資銀行グループ)委託作成)

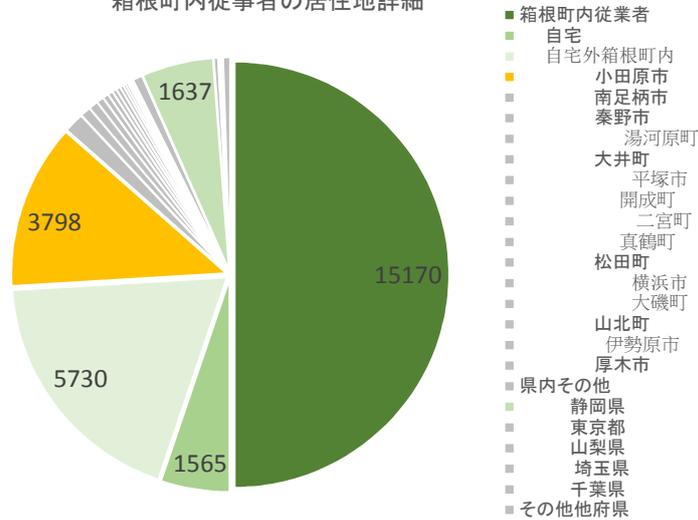
雇用者所得流出 | 域内人口減少



- 2015年の総人口と生産年齢人口は1980年時の約1/2
- 2015年時点でその割合は...
- 1985年からすでに年少人口は減少傾向

国勢調査による箱根町従事者の居住地

箱根町内従事者の居住地詳細



近隣地域(特に小田原)からの通勤者が顕著

住民票を移動しないで、住み込みで働いている人も見られる

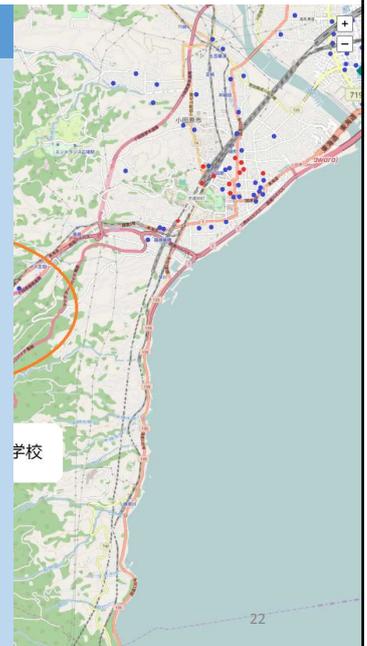
域外労働力依存

22年国勢調査第3表抜粋 箱根町内従事者居住地データ

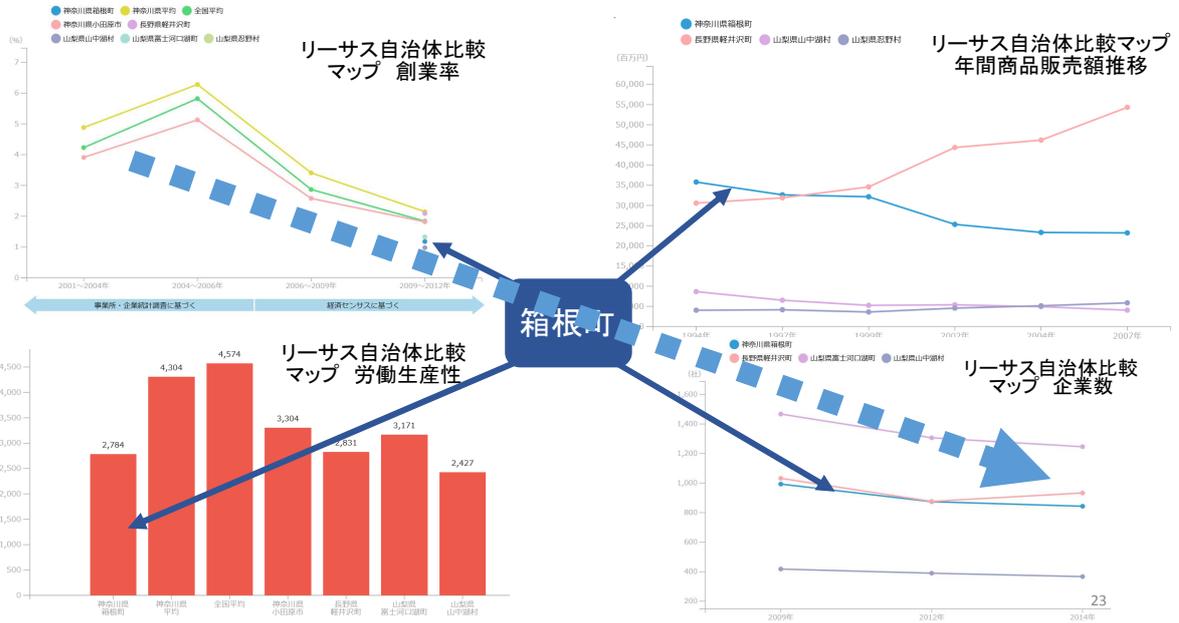
地理的條件の悪さ

まとめ

- 限られる教育、医療、移動手段等のインフラ
 - 路線バス、登山鉄道などの運賃の高さ
 - 近隣3市(小田原、御殿場、三島)への容易なアクセス
- ↓
- 医療、高校、ショッピングの依存
- ↓
- 近隣3市への移住の誘発



RISASによる箱根町の経済の停滞



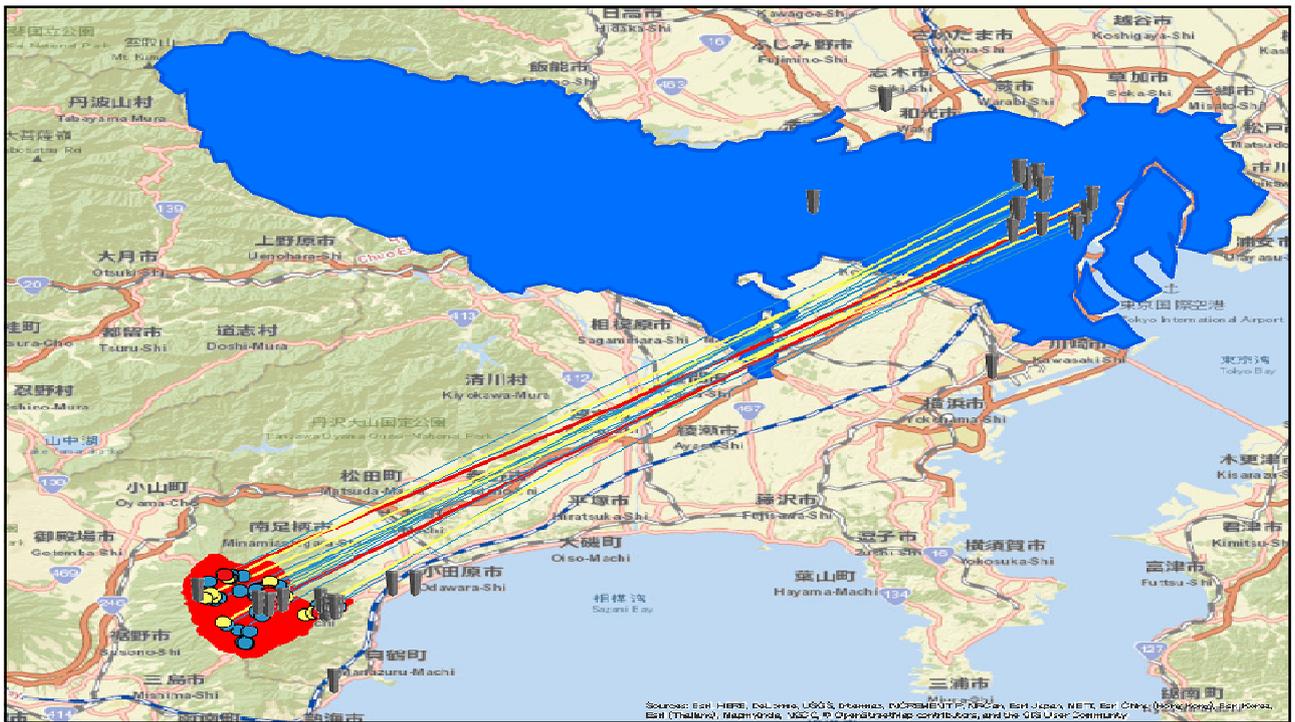
地図情報の概要

◎年間売上推計
2月料金 × 稼働率(60%) × 営業日数(300日)

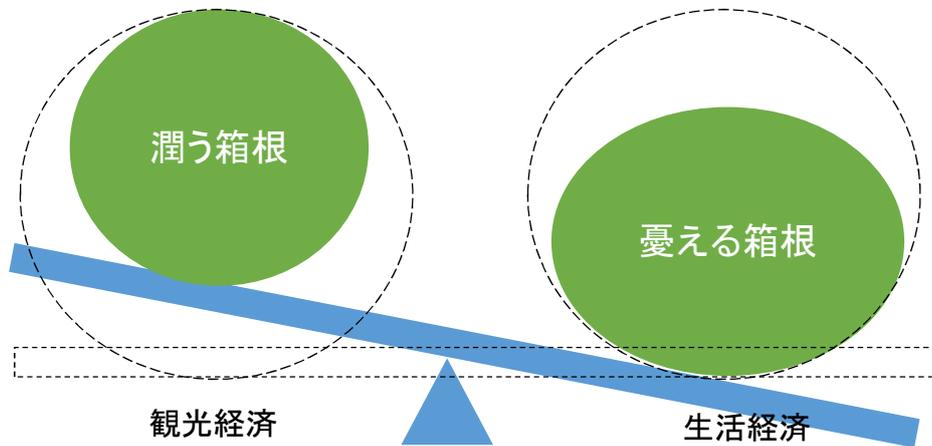
◎参考資料
箱根町・箱根町観光協会「箱根の観光情報 はこねの手引き 平成28年(2016年)」

◎分類
本社所在地・収容人数・年間売上高・部屋数

	箱根	東京	その他
事業所数	48	25	15
平均部屋数	41	69	58
平均収容人数(人)	164	224	190
平均年間売上(億円)	4,806	6,964	4,798
年間売上合計(億円)	230,697	167,136	71,970



箱根町



29

問題点の整理

問題①
居住人口減少

問題②
雇用流出

問題③
観光業の
果実流出

“観光経済と生活経済の調和”をキーに抜本的かつ具体的な方策の必要性

Sharing
RESOURCES

課題への解決策の提案



31

提案 その1 コミュニティシェアリング

Before
普通の観光地



After
観光客: また行きたくなる観光地
居住者: 町民を挙げての町づくり

箱根町に一步足を踏み入れると日常の生活感が一掃、週末が宝の時間
観光客と地域居住者の触れ合いによる非日常的体験
「見る観光」から「体験型の観光」への転換を実現
域内居住者が誇りをもって自ら観光振興

提案 その2 子育て教育シェアリング

Before

人口流出

After

居住希望者殺到！

中学卒業までの教育にかかる給食費や教材費用等を完全無料化
町内に高校がないことを補って、近隣地域の高校の分校を設置
文武両道を追求して周囲の町が羨むような高校教育計画を実現
子育てを地域とシェア、さらに高校教育を近隣市町村の高校とシェア

33

提案 その3 交通シェアリング

Before

不便な偏狭地

After

便利で快適な交通網

箱根町への自家用車の乗り入れは地域内居住者を除いて制限
箱根町の渋滞を緩和し、住民や観光客の移動の改善
観光客による利用増大で運賃引き下げ
公共交通機関の利用増加による運賃収入の増加
高校への通学時に必要な公共交通機関の運賃の負担軽減
観光客用専用駐車場による駐車場収入
道路、駐車場、交通機関を共有する「交通シェアリング」

提案 その4 空き家シェアリング

Before

増え続ける実態不明
の空き家

After

移住希望者順番待ち

町が主導する空き家・空き保養所活用ビジネス
移住者に安い家賃で住居を提供
民泊による体験型観光の推進
低利用土地・物件の資源価値を共有する「空き家シェアリング」

提案 その5 グルメシェアリング

Before

話題性のない飲食料店

After

うまいものは箱根に行け！

食材の提供を含む大規模な飲食サービスの「グルメシェアリング」
近隣地域の食材を一度に味わえる場所を作る構想
近隣の地域との観光サービス拠点のシェア
新たな市場と観光コンテンツの創出

提案 その6 ときめきシェアリング

Before

日帰り温泉客が中心

After

老若男女の宿泊客爆泊

花火や星空観賞、ライトアップ散策などの夜のイベントを充実
日帰り観光客を、宿泊する時間帯まで町に滞在させる効果
イベント関連業と宿泊関連業のタイアップで新たな観光サービス

提案 その7 ヘルスシェアリング

Before

温泉頼みの観光事業

After

マラソンを魅力の一つ
に！

箱根駅伝の本コースを走るマラソンを企画
健康志向の高まりを利用、箱根駅伝の圧倒的知名度を活用
大学の陸上関係者と健康志向をシェア

まとめ

死活問題

人口流出



最善の解決策

住みよい町づくり
観光業のさらなる発展

提案の実現のハードルは高い
しかし抜本的な解決策が必要



全町民を上げた速やかな行動

39